

なる時を此あきいを見方これを見れいはいひあふ
其或不見不格といふ人云悪をからんと吾或あつた
たゞいあふもふれ其無か自然の事今もよくおけ
る父子兄弟を常乃といふことよかんをれを
あつたとの相違あり吾のま見まゝ和すれを
そのよれふ志つて師弟朋友同志皆志つてこれ
争ふふと争つてその和を志つてあつた小形或見
ざる事或見たり父母兄弟不和といふ事も辭を
孩提乃時の和をふた父母兄弟乃郷人小うやまれ
ぬや刑罰ふち入ぬやうなる悪をあつた時を
わとあつた人小形す一旦乃いれ遠とおぼへてた乃

人乃思ひありをいふやかくいふやいとのいふや
争ふ其或或教ふといふやいふやいふやいふや
何乃其或いふやいふやいふやいふやいふや
たゞ其或いふや孩提乃の事或育せられ成長や
そのいふや或或不見不格といふやいふやいふや
終は預言を化といふやいふやいふやいふや
郭巨孟宗乃篤孝のといふやいふやいふやいふや
凡情乃及よむふたす至誠天の感といふやいふや
二つなり神意あり孝子れ其情を盡せるふた
いふやいふやいふやいふやいふやいふや
欲乃父母よつた或いふやいふやいふやいふや

るに故は天授も又神女をあるべきにあらざるや
をわづらひの金枝たすひ家筆成りし所の二大舞小終
く徳聖人なりそ天子より宮田海濱たのらふ有
余歳子孫万々歳の末孫をたすひ明末の諸侯下知
し終ふもかひ事くのものにぬき身すす老ふ其終
々乃其縁をわひて徳聖人なる老ふ高官大縁
を命ぜり候とよりたふたといふ歩け外小射るが
かゝるの老い実果小あつと一化乃老子の的
小當りかゝぬち矢ともけさる老乃及ふなりと
凡日常とする老い実果之故は後学乃人々大縁を仰
とと一其天よりたふと一なり乃志候を教

魚がけき天然性命乃父母を奉養しと後来
乃情欲成父母と甘願其老を同し見ざるも
よこがむ魚うりい悪乃とたふあふせぐべとい
ともとざるよといふにけさるを誠を学あふ
父母平人なりばぬと成る一奉よりぬ人なり
親より師より魚なり同き事何をいふに係を
奉養せしと妻系と家の有るべきとかな
親の精神去く迄のむねもかゝる老ふ子乃
一生を人の世間ことなる何と何と親のむねよかん
け一事成りて見れい先祖より乃田宅徳あつて
親の奉養とありとつとつとむねも皆親供と

三十一
妻子なり成身——親の口体乃為祖先の統を継ぐ
とい親をも又不孝乃罪人なるべし親を養ふも家の
有無を以ていふ事ありて其は孝なり——葬を
をやつて其親の身有身——蓋し永くおのゝく其質
乃美なり神祇を感動する乃篤孝なりといふ事
なり——其時不位乃咎と後世よりいふ——後乃人の
半生なり成身之事——世間乃人親の所を承る
といふ事あり是は不孝の罪あり——蓋し永く我
所より親の所を承る事あり妻子も人の欲するべ
し事あり親を承る事ありといふ事あり——人乃
人乃其なりとなる事あり人乃其なりを承る事あり

乃為一生をやつていふ事あり——人乃其なりを承る事あり
といふ事あり——人乃其なりを承る事あり——人乃其なりを承る事あり
志なり成身——その事なりいふ事あり——人乃其なりを承る事あり
後継情欲の父母は事なりといふ事あり——人乃其なりを承る事あり
不孝といふ事あり——人乃其なりを承る事あり——人乃其なりを承る事あり
母なり成身——その事なりいふ事あり——人乃其なりを承る事あり
継母乃其なりを承る事あり——人乃其なりを承る事あり——人乃其なりを承る事あり
と孝行なりいふ事あり——人乃其なりを承る事あり——人乃其なりを承る事あり
人乃其なりを承る事あり——人乃其なりを承る事あり——人乃其なりを承る事あり
欲なり成身——その事なりいふ事あり——人乃其なりを承る事あり
人乃其なりを承る事あり——人乃其なりを承る事あり——人乃其なりを承る事あり

実と云祿す。小て世なり。神乃其感。然いふ
如尤。其志も愛に。然く慕。其事は。愛
く。一歳寒。厚。水の。時。常。け。生。実。も。富。美。人の
其。秋。より。あ。く。と。へ。か。ん。ゆ。い。新。以。貧。賤。の。もの。い。く
係。は。川。は。は。ね。ぬ。れ。や。も。ろ。う。う。の。中。ま。海。遠。く。海
乃。生。実。も。天。子。諸。侯。も。い。く。も。甲。ひ。あ。る。の。事。と。川
は。小。形。の。い。く。歳。寒。く。衣。を。も。ね。く。と。ふ。火。を
甲。ひ。さ。き。も。居。か。く。然。を。も。と。う。ふ。と。厚。水。り
所。は。も。大。病。は。案。次。ゆ。い。所。祖。父。母。より。傳。ふ。所
親。乃。は。体。の。欲。の。い。く。も。生。く。け。事。を。そ。め。く。親。を
不。孝。の。罪。人。と。化。ん。ふ。少。老。ある。老。い。人。の。い。く。み。を

い。ま。の。と。云。事。ゆ。一。父。母。乃。其。何。を。快。く。ん。王。祥。ふ
あり。く。い。是。北。戎。論。か。く。後。世。の。人。に。れ。を。う。も
せ。は。後。来。情。欲。の。父。母。は。事。ゆ。小。流。す。ゆ。一。同。郭。巨。を
い。ん。云。二。家。の。至。味。を。何。く。親。す。く。然。ま。婦。も。麻。食
を。食。さ。る。と。子。の。志。に。親。す。く。疎。を。愛。く。食。は。け。ろ
と。成。の。い。く。も。親。の。志。に。本。を。慈。仁。乃。衆。見。ふ。より。く
こ。う。く。は。体。の。情。欲。を。い。く。も。老。へ。た。親。の。本。を。う
順。從。く。其。志。を。ま。め。い。至。味。た。い。く。も。麻。飯。を。供。ひ
ゆ。れ。の。と。親。乃。独。味。乃。為。子。を。教。さ。る。と。親。の。本。を。い
ふ。痛。む。ゆ。い。く。を。う。と。何。か。小。形。に。さ。る。事。も。全
神。乃。精。神。親。を。を。敬。ま。る。い。あり。く。己。を。い。す。ん。後

高き妻又丈夫の順に従ふとむる天下古今此の
及ところ如くなり此理をあるは學問ふる所と易
一郭巨は爲孝なる老母之儒といふも其子に成得
ともかへ一神母の具感は其至誠純孝なり其子
事ふ如く學ぶも其法を學び一郭巨は
親あるは成知くこと妻子有と成不孝の孝を云
終ふ如く一孟宗といふ人云冬月乃生筆天子大樹と
いふと得と^ス龍雪中牡丹の芽を以んと云ふか
たといふありとも時なりと云ふものなきを食ひて
此を病の人にもほいしむ如く況や病人を以て其
乃理を學びて此理を今乃云ふありは其理なり其理

其時ありと云ふこと求むるはことありとも食
を食ふるなり此理をのこす一孟宗平日其家
得くこといふものなり親を奉り子母乃さふくは
くかん和をも求む一と供むれは其奇特なり
なりと筆をも終るなり如く一時なりと云ふ物
毒なりありといふも是も孝感乃神物なれば良
薬と云ふ病なり至誠神を感するは理なれば
平生も人力の及かざる事なり孟宗乃誠なり其
ふ云はけり乃神物なり如く其理を學ぶ乃其
天地を動し鬼神を感せしむるなりと云ふ事
孟宗は云ふは是れを傳ひ如く其理を學ぶ

時を性命の父母を失く情欲は事父母にあらずの
 あらんと試云のこは孝子と云ふと云ふと云ふと云ふ
 と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
 子と天下國家を治めんと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
 成る故は孝子の名あり又感有るは孝乃父母を
 董永王祥郭巨孟宗の父母乃と云ふと云ふと云ふと云ふ
 子の尊へもなく又感も不可有孝子乃乃徳なり
 孝を成る故は化乃聖賢は孝子乃きこふなり
 なり同じく云ふなり孝行の通稱とすゆに云其位其
 貧く小徳と云ふ家業を失く子孫をふて子乃其業
 と成く又母乃を安するを通稱と云ふ孝經乃五

二四
そけく子婦は流くまんとは思ふも人情の習ふ
父母子婦ともふ安んぬうひ又婢妾なき様
かゝることも多き事と衣食ありて昼夜乃家
業せりて一々後すれば父母は流くまぬいふ
なりたひ三三人乃男女ありとも其業は流く
あきと私用ふつひてた朝夕の心術孝慈乃
本と不^{ウシヤ}実と一家和睦^{ワツ}父母順なまは今の世
乃至孝なるる一前漢の文帝帝の世の山谷
を以て天質の義なるなり一事に於ては生^{セイ}家^カ行^{コウ}
なりつと然くともあるまあり天子乃所せり
さうら母は流くまぬかゝる婢妾の心をさう

なせりいふまかのさうといひて下りる乃老
乃かゝるをさけまぬ一不^{ウシヤ}実かゝる後成る
ま孝子の相言はなぬを成^ツ必^ツ保^ツ至善を成く
長為よあるぬう

寛政二年庚申秋

大田堂藏

寬政二年庚戌仲秋日

江都 知音堂藏版

三都 發行 書肆

江戸芝神明前

岡田屋嘉七

今淺草第町二丁目

須原屋伊八

今日本橋二丁目

山城屋佐兵衛

今

須原屋茂兵衛

京寺町森原下凡

勝村治右卫門

大坂心島橋通壹丁目

秋田屋太右卫門

寬政二年庚戌仲秋日

江都 知音堂藏版

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

三都

發行

書肆

江戸芝神明前

岡田屋嘉七

今淺草第町二丁目

須原屋伊八

今日本橋二丁目

山城屋佐兵衛

今

須原屋茂兵衛

京寺町赤原下凡

勝村治右卫門

大坂心長橋通壹丁目

秋田屋太右卫門



二



[Handwritten notes and signatures at the bottom left corner]

